

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	ミーティングで理念に必ず触れ、確認し合うようにしていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域の人々にも、事業所の理念を積極的に理解してもらえよう努めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近隣の方々との関わりを積極的に行っていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域の一員として、色々な活動に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	役員会議で話し合いは行っているが、具体的な内容は決定していない。	○	地域の高齢者の方々の為に何が出来るか、職員全員で話し合い、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の内容を伝えると共に、職員全員に自己評価票を配布し、個々の評価・改善点を検討できるようにしている。	○	ミーティングにて、評価を見直し、改善に取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況・要介護度・ホームの活動・外出行事の報告等を行っている。避難訓練の報告では、避難経路についての意見をいただき、現場のミーティングで再検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活福祉課に関しては入居の際、担当者がホームの見学を行うなどの連携はある。	○	市町村とも話し合い今後質の向上につながるかわりをもつようにしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業、成年後見制度について、学ぶ機会を十分にもうけていない。	○	現在、権利擁護、成年後見制度が必要な利用者の方はおられないが、職員全員が把握、活用できるよう努めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを職員がいつでも見れる位置に置いてある。言葉使いを丁寧に、冷静な対応を心がける事をミーティングにて伝えている。 利用者の全身状態を日々、チェックしている。	○	職員全員と十分に虐待防止についての理解に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者や家族等が不安を抱えられないよう十分に説明し、疑問点はしっかり傾聴するよう心がけている。解約時も重要事項説明書に明記してある退居要件に沿って、利用者、家族等に十分に説明し、納得していただいた上で解約としている。	入所前にも利用者の生活状況、ホームの見学の他、入所要項を説明している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その日の利用者の担当を決めている。意見・不満・苦情があれば、管理者、主任へ口頭、文書で伝わるようにしている。また、電話したいと利用者が言われた時も、すみやかに対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	おおむね2ヶ月に一度、便りを送っている。家族面会時は、その都度、健康状態を報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記してある。ホーム玄関にも苦情窓口の明記されたチラシを自由に持ち帰れるように置いてある。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の役職ミーティング等で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者、家族の負担にならないよう、迅速な職員間の報告・連絡・相談にて勤務の調整・変更を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の方々に動揺がないように、原則異動は行っていない。離職者が出た場合は、問われた場合のみ納得いただける説明を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	入社時、管理者または主任等含めて、現場に馴染んでもらえるように1日研修をしている。	○	今後は外部の研修も受けれる機会を設けたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	連絡会等への参加をして情報交換や施設見学を行っている。	○	つながりが限られているので、交流の場をふやして、質の向上に努めていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	年に数回食事会、忘年会など行っている。	○	職員との交流の場を増やし、ストレスの把握をし、福利厚生に厚みをもたしたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	毎月の目標を個々で決めてもらい反省や今後の取り組みについて話し合い、役員ミーティングでは評価、課題を決めている。	○	勤続年数による実績の評価を今後はしていく必要がある。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	本人の訴えに耳を傾けるようにしている。入居前には必ず本人の食べ物の好き嫌いや、生活歴等を把握できるようにしている。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族等より、現在の状況、不安、要望、過去の本人の生活スタイルをしっかりと聞くように心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供書の内容及び、本人、家族等の意見を把握し、居宅介護支援事業者と相談している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学の回数を増やしたり、お試し機関(ショートステイ)をお勧めしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の仕方、盛り付けを教わったり、掃除の仕方を教わったりしている。日常の会話を大切に、その日の出来事や行事等について一緒に考えたり、感動する事で、「する」「される」という一方的な間柄にならないよう心がけている。	○	楽しい場面だけでなく、怒り、悲しみなどの場面においても同じ目線で一緒に考えていける間柄になっていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	赤ちゃんを連れてこられる家族がおられるので、その都度、写真を撮り、本人を交え、一緒に赤ちゃんの成長を楽しみにしている。	○	家族とどんな事でも話していただける間柄になる為にも、まずできるだけ、くつろいで頂ける雰囲気作りを行っていききたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	夏祭り、敬老会等、家族への参加を呼びかけている他、面会に来られた際は、ゆっくり話しをして頂けるようにお茶を出し、本人の普段の様子をお伝えして、本人、家族がその後楽しく過ごせる雰囲気作りができるよう心がけている。	○	できるだけ面会、行事の参加を促し、本人がさびしくないように努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慣れ親しんだ病院(Dr)とは、できる限り、継続して関係をもっといただこう努めている他、電話・手紙・面会も本人の希望に添えるようにしている。	○	家に帰ってみたいという希望をもっている方もおられるので、家族と相談しながら検討していききたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その日の、利用者の表情、言動に常に気を配り、利用者同士の関わり合いに努めている。それぞれの利用者の方が会話を楽しんでいただけるよう、利用者同士で共用できるような話題を提供できるよう心がけている。	○	意思疎通が困難で、なかなか他の利用者との関係を築けない方がおられるので、少しずつでも、コミュニケーションをとっていただけるにはどうすれば良いかを検討していく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	体調不良の為入院し、退居された方について、その後の経過を随時、連絡、相談しあったり、お見舞いに行ったりするなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分から思いや希望を伝えるのが難しい利用者の方には、職員側から普段の声かけにより、確認している。普段の何気ない言葉の中に、本人の思いが込められている場合があるので日常の会話の時間は特に大切にしている。	○	意思疎通の困難な方については、以前の暮らし方、生き方などを家族等より確認し、検討していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に届く情報提供書に目を通し、生活暦、サービス利用暦の把握をしている。入居後も、趣味、出身地など会話の中で織り交ぜるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録に一日の過ごし方を記載している。心身の状態で特変ある場合は、特記事項、連絡帳に記載し、全員が把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人からは意見、要望を聞き取り、家族には来所時や電話連絡時に今後のケアのあり方、以前好まれていた事、行っていた事等を確認している。職員からはミーティングにおいて、それぞれの意見を出し合い、今後の対応について検討している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度見直しを行っている。入院などで状態が変われば、その都度、本人、家族、関係者と話し合い、計画の見直しを行うとともに、改善に向けての新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の言動、状態は記録に記載している。申し送り等で、状況が変わればその都度、職員間で情報交換し、ケアの見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態・家族の要望を把握し、必要時は迅速に受診、勤務変更を行うなど臨機応変に対応している。	○	原則、受診時は家族対応としているが、できない場合は職員対応となる為、日中の待機者をもうけたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練は年2回行い、地域の方にも参加をお願いしている。他、夏祭り、敬老会などボランティアの協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	担当者が細めに各介護支援事業所に訪問し、情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員も参加されている。利用者支援の情報交換を行い、協力関係を築いている。	○	今後は、FAX等での空き状況の報告を行うようにしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携はあるが、本人、家族が希望されれば、馴染みのあるかかりつけ医との関係を継続していただき、その医療機関との関係を築けるようにしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関ではないが、相談あれば、心安く応じてくれる医療機関がある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと連携をとっている。必要時は、電話相談、訪問をお願いしている。月1回情報交換を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先との情報交換は随時行い、病状や入院期間の把握に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを行っていない為、入居時にその後の以降を確認している。ターミナル期が近づく段階で、本人、家族の思いに注意を払い、かかりつけ医と相談し、支援につなげている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアは重要事項説明書に行わないと表記している。	○	今後、ターミナルケアを行えるか、事業所、職員間で、検討していく必要がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に戸惑われる事のないよう、家族、ケア関係者との情報交換、注意事項をきちんと話し合い、安心できる生活を提供できるよう支援している。	○	退居後の生活に関わる、ケア関係者にしっかり情報を伝える事で、新しい環境にすぐに馴染めるよう支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	歩行時、人の手をかりたくない方には、誇りを傷つけないよう、側で見守りを行い、排泄で失敗があっても、本人が気にされない対応を心がけている。(お茶がかかりましたね等)他、記録で誇りを傷つける記載があった場合は職員間で話し合い、改善に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	笑顔でゆっくり会話をし、話しやすい状況を作っている。自己決定を尊重し、本人が満足できる支援を心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に、体調や気分に合わせて、散歩やお茶の誘導を検討しているが、時間帯によっては希望に添えないことがある。	○ ホームの流れによって、昼食時や入浴時は対応できない事もあるが、極力自分のペースを保っていただけるよう努力したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類購入の際は、事前に本人から好みの柄を聞いている。外出時、希望あれば化粧の支援をしている。散髪は、一人ひとりの好みを聞き、散髪支援をしている。別の美容院を希望される方がおられれば、本人の望む店に行っていただくようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を活かし、野菜切り、盛り付け及び、食器拭き、後片付けを一緒に行っている。食事も、常に一緒に摂るようにしている。	○ 個人個人の食事等の好み聞き、取り入れていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつ等は、希望を聞いている時もあるが、十分には聞けていない。	○ 本人の嗜好を尊重し、好みのものを楽しんでいただけるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツは使用していない。パットの使用者の方については、排泄間隔を把握し、できるだけトイレで排泄していただけるよう心がけている。夜間帯等、どうしても尿量多く、尿失敗が続く方は本人、家族の了解を得て、リハビリパンツの検討をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により、1日おきに入浴、間は足浴をしていただいているが、一人ひとりの希望に沿った対応ができていない。	○	一人ひとりの希望(曜日、時間帯)を把握し、その時に入浴ができる体制作りが必要。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後は、利用者の方それぞれ自室にて休憩をとっておられる。落ち着かれない方については、スタッフと一緒に座って休憩をとっていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い、盛り付け、掃除、洗濯物たたみ等、自分の役割として行われている利用者の方が多い。他、好きなテレビ番組がする日には、その時間帯に声かけするように支援している。	○	個々の力、好みに応じた役割を増やしていき、張り合いや喜びのある日々を過ごしていただきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方は、ご自分で管理していただいている。また、本人希望により金庫預かりにし、必要時に本人に渡すなどの支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望、体調に沿って、近隣の散歩を行っている。	○	郊外に出たいという希望に迅速に対応できるように努力したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	夏祭りや敬老会、外出行事など、家族参加にて行っている。個別では、受診の帰りなどに買い物等に付き添うなどの支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が家族等に電話したいと希望された場合は、職員がかけ、一言お伝えして本人に手渡すようにしている。また、利用者の方がメモしている電話番号をかける支援をしている。手紙を出したいという希望があれば、その都度支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はしていない為、いつでも訪問していただける環境は整えている。居室以外にも、廊下、縁側にソファ等を配置し、会話できるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送りの中で、職員の自覚のない身体拘束が行われていないか、確認している。	○	身体拘束についての資料を配布し、ミーティングにて職員の介護員としての意識を高める。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はかけていない。玄関は、安全の為、夜間は鍵をかけるが、日中はかけていない。ただし、安全確保の為、玄関を開けたらチャイムが鳴るようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	落ち着きがない利用者の方については、廊下にセンサーをつけて、所在を把握できるように努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、消毒液(ハイター、洗剤)等は、ロックまたは手の届かないところに設置しており、刃物類は個別の収納ボックスに収め、危険防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティングにて、ヒヤリ・ハットに記載のある状況を全員が把握し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	その日の勤務者が全員で話し合い、ヒヤリ・ハットに記入するよう心がける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を行っている。救急対応マニュアルを把握し、スタッフの目の届く場所に掲げている。	○	緊急時の理解、応急処置や初期対応の訓練を定期的に行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議にて、避難経路の確認、助言を受けている。	○	地区の消防団の方々との連携を図ると共に、より多く地域の方々の協力が得られるように努めていききたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	外に一人で出られる方など、個人の状況により、リスクについては家族等に説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日行い、ファイルに記載している。普段と違う様子が見られれば、申し送り、記録への記載をし、早い段階で、訪問看護に相談できるようにしている。	○	ちょっとした変化でも、訪問看護に相談し、早い段階で動ける体制に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の情報は、職員全員がいつでも見る事ができる場所に保管している。	○	正規職員、パート職員の全てが、薬の情報、リスクを把握できるよう努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	腸閉塞の危険性があるので、食物繊維を摂って頂いたり、腸管蠕動を増進する為、散歩をしたり、歩行距離を伸ばす事で対応している。便秘が継続する場合は、下剤を追加したり、坐薬を挿入するなどして対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は口腔ケアを促している。個々の能力にあわせ、できる範囲は自分で行っていただき、仕上げ磨きが必要な方は、スタッフがやっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日、ファイルに記載している。適切な水分量が確保できるよう、摂取量の少ない方は、自室にお持ちして、その都度確認をしている。他、嚥下状態によって、水分にトロミをつけている。	○	嫌いな食材でも食べていただけるように調理を工夫していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを職員が見やすい場所に掲げている。時期により、ミーティングにて注意点を話し合っている。うがい、手洗いを徹底すると共に、スタッフはペーパータオルを、利用者は個別のタオルを使用している。(トイレ、食前、外出後等)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は毎日ハイター消毒、まな板も1日1回ハイターにて消毒している。盛り付け前の食器の消毒も必ず行っている。食材の残りは冷凍したり、処分したりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家改修型の建物の為、気軽に出入りしやすい。庭には花壇があり、玄関には季節の花を飾っている。事業所の看板も手書きで親しみやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下には季節の花を飾り、壁には敬老会、夏祭りなどの写真を貼り、目で見て楽しんでいただけるようにしている。外の光が強い時は、すだれを置いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、廊下にソファを置き、一人あるいは気の合った利用者同士で過ごしていただけるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	寝具、家具においては、本人、家族と相談しながら、家庭で 使っていた馴染みのある物を使用していただき、安心感のあ る部屋になるように心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	1日1回全ての窓を開放し、掃除を行っている。温度調整は 部屋ごとに気を配り、本人の状態に応じて随時調整をしてい る。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	利用者の方の動作に合わせて、手すりの位置を工夫している。 段差のある部分にはテープなどで目印をつけ、段差に気づ きやすいように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	個々の残存能力をできる限り引き出し、家庭での生活となる べく差が出ないように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	建物脇に畑を作っている。天気の良い日などは、外でお茶を して、草花を楽しめるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・団地内の民家改修型の建物で、施設感のない家庭的な雰囲気を心がけ、自宅でお過ごしいただいているのと変わらないような支援に取り組んでいる。